

# 結納式を自宅で行う - 仲人が両家を往復する場合 -

当日、男性宅では、結納の品々を飾って仲人をお待ちします。仲人が到着しましたら、男性本人と両親が、揃って玄関先でお出迎えます。



男性側

「本日はおめでとうございます。」  
と、玄関先では簡単なお挨拶程度で、雑談は避けて、そうそうに、結納を飾っている部屋の上座に案内します。席につきますとさっそく挨拶です。  
※あいさつの間は、座布団は出しません



仲人

「このたびは誠におめでとうございます。ふつつかながら私がお本日のお役目謹んで努めさせていただきます。」  
ポイント:全員がせんすをひざの前に置く



男性側

「本日はご多忙の中、お役目大儀に存じます。結納、目録の通りです。お改めのうえ、お手数ですがよろしくお願いいたします。」  
ポイント:全員がせんすをしまし  
広蓋の向きをかえ、仲人に渡します。  
目録を開いて、目を通し確認します。  
ポイント:全員がせんすをひざの前に置く



仲人

「確かに目録の通りお預かりし、納めさせていただきます。」  
ポイント:全員がせんすをしまし  
その後、昆布茶か桜茶と紅白の引き菓子などでおもてなしをします。世間話などはせず、小憩の後、仲人は飾ってある結納飾りを箱に詰めて、ふろしきに包みます。また、目録と結納金は広蓋にのせ、その上に家紋入りの富久紗をかけ、家紋入りの風呂敷で包みます。準備が整えば出発です。玄関まで見送ります。  
※仲人が、男性宅を出発しましたら、男性本人が、先方様に一報するほうがいいでしょう。

仲人が到着しましたら、女性本人と両親が揃って玄関先までお出迎えます。  
※女性宅までの道や時間などは、前もって相談しておきましょう。道を間違ったり、バックなどはしないようにしましょう。また、決めた時間に遅刻なんてゆうのも駄目です。



仲人

玄関先にて  
「本日はおめでとうございます。」  
などの簡単な挨拶程度で、雑談はしません。そして、結納を飾ってもらう部屋の上座に案内します。

「早速ですが、ご用意させていただきます。」



女性側

「どうぞ、よろしくお願いいたします。」  
すぐに結納品を飾ります。その時、別部屋で待つか、飾るのを見ながら、その場で待っていてもいいでしょう。飾り終えたら挨拶です。  
※別室でお待ちの場合「用意が出来ました。」と、声を掛けます。全員が着席しましたら、広蓋を前に置いて、風呂敷をはずし、かるくたたんで横に置き、風呂紗を掛けた状態で、ご挨拶です。  
ポイント:全員がせんすをひざの前に置く



仲人

「この度、お嬢様には〇〇家との縁談相ととのわれまして、誠におめでとうございます。本日はお日柄も良く、〇〇家より、婚約の印としてお預かりしました結納の品々を、お届けにまいりました。幾久しくお受け取りください」  
ポイント:全員がせんすをしまし  
広蓋の向きをかえ、父親の方へ差し出します。



女性側

ポイント:全員がセンスをひざの前に置く  
「誠に丁寧なお言葉を賜りありがとうございます。その上、結構な結納の品々お持ち下さいまして、有難く幾久しくお受けいたします。」  
ポイント:全員がせんすをしまし  
父親、母親、本人と、目録(寿)に目を通します。目録を確認しましたら、女性側全員で別室に移ります。  
※母親だけが席を立つ場合や部屋の下座で行う場合もあります。

目録、結納金を取り出して、男性側の広蓋に受書をのせます。お多芽を渡す場合は、下から白木の台、多芽紙、お多芽、受書、左に扇子、右に熨斗を乗せて、男性側の風呂敷をかけて、仲人の待つ部屋にもどります。  
女性側で広蓋・富久紗が、ご用意できるのであれば、女性側のお道具でお渡ししましょう。

ポイント:全員がせんすをひざの前に置く  
「こちらは受書でございます。幾久しくお納めください。」  
ポイント:全員がせんすをしまし  
広蓋の向きをかえて、仲人へ差し出します。



仲人

ポイント:全員がせんすをひざの前に置く  
「お受け取りします。ご婚約相ととのいおめでとうございます。」  
ポイント:全員がせんすをしまし  
受け取り、男性側の風呂敷で包みます。締めくくりに、仲人がおめでたい言葉を述べるのもよいでしょう。  
その後、昆布茶か桜茶と紅白の引き菓子などを出します。続いて、用意してある祝い膳でおもてなしします。あくまでも仲人は使者ですので、あまり長くお引止めしないように心掛けましょう。食事が済み仲人が席を立たれたら、玄関までお見送ります。

仲人が到着しましたら、男性本人、両親で揃って玄関までお出迎えます。挨拶はせずに、すぐにお部屋のの上座に案内します。



男性側

ポイント:全員がせんすをひざの前に置く  
「ただ今無事に、結納の品々お受けとりいただきました。先様大変喜んでおられました。これは受書でございます。」  
ポイント:全員がせんすをしまし  
広蓋の向きをかえて父親に差し出す。



仲人

ポイント:全員がせんすを膝の前に置く  
「お役目ご苦労様でした。確かに受書ちょうだいいたしました。本日は誠にありがとうございました。」  
ポイント:全員がせんすをしまし

この後、祝い膳でおもてなしするか、またはお膳料や酒肴料といったお金でお渡ししても結構です。

- 注) 祝い膳・ご祝儀などは、事前に両家で話しあって同額にするのがよいでしょう。
- 注) 口上を述べる時に扇子を自分の前に、置くのが基本です。それぞれが、一本ずつ持って置くようにしましょう。また、服装によっても持つ扇子が変わりますので、間違いないようにしましょう。
- 注) あくまでも仲人は男性側がお願いしたのですから、お礼は男性側がします。また、金額の目安は、結納金の一割程度です。
- 注) 女性側も広蓋、富久紗、風呂敷、を用意しておく方がよいでしょう。

